

子牛の下痢対策 ～ 母子免疫を活用した下痢対策について ～

子牛をすくすく育てるために、下痢の予防は大切です！
今回は子牛の下痢予防法の1つとして、牛下痢5種混合不活化ワクチンによる母子免疫を活用した下痢対策をご紹介します。

〈まずは母子免疫について！〉

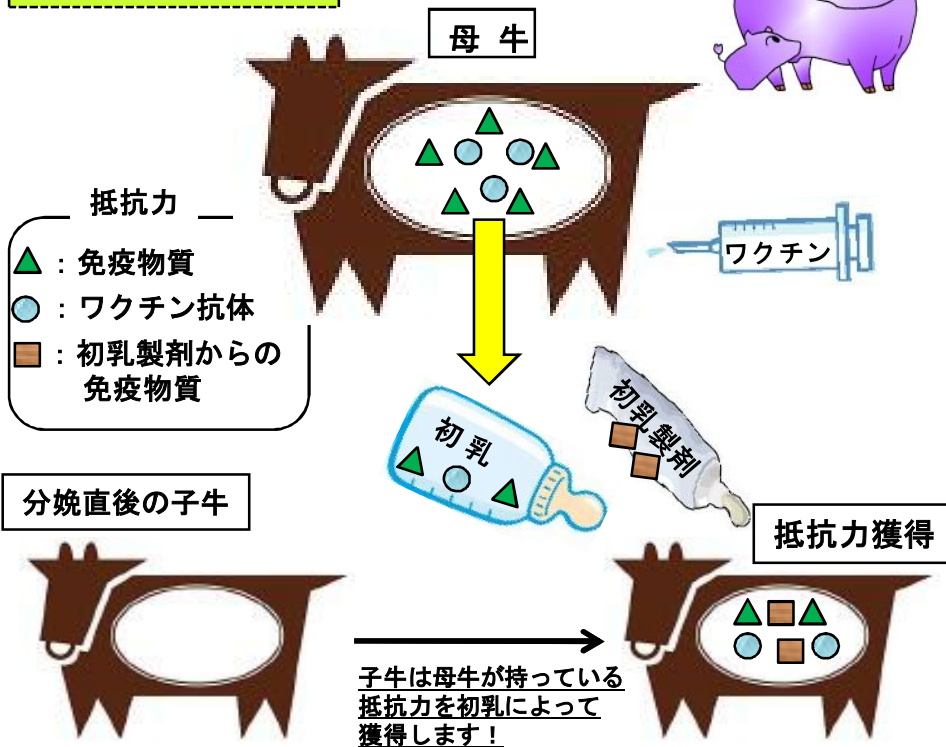
お産の後、子牛に抵抗力を付ける物質をたくさん含んだ一定の期間出るお乳のことを「初乳」と言います。お産直後の新生子牛は病原体に対してほぼゼロの抵抗力しかありません。このような新生子牛に対してなるべく早くに抵抗力を付けさせるために、分娩後6時間以内に初乳を飲ませることが有効です。このように初乳から獲得する抵抗力を「母子免疫」と言います。

〈母子免疫を活用した下痢対策って？〉

初乳には病気に抵抗するいろいろな有効成分がたくさん含まれています。その有効成分の量は母牛の持っている抵抗力に左右されます。そこでお産前の母牛にワクチン接種し抵抗力を付けることで初乳の有効成分の量が増え、生後に起こる下痢等を軽くすることができます。また、分娩直後に市販の「初乳製剤（1～1.5L）」もしくは「体重の5%のホルスタイン種牛の凍結初乳」を飲ますことで更に抵抗力が増します。これは、お乳の少ない母牛の新生子牛への抵抗力を補う方法でもあります。

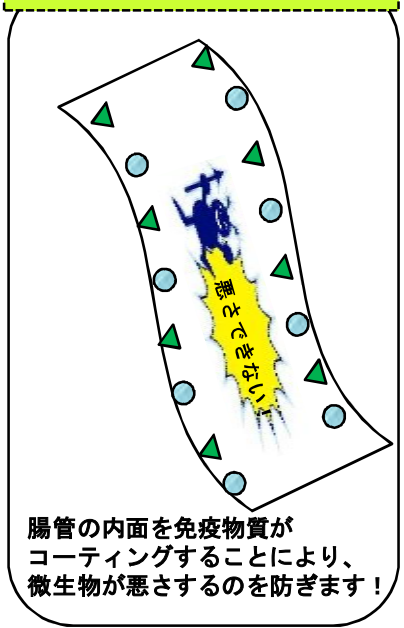
また、下痢を起こす微生物に対しては腸管局所での抵抗力も重要で、これを局所免疫と言います。自然哺育の場合には、免疫された母牛の乳汁を飲むことである程度の期間は下痢を予防することができます。

母子免疫のイメージ



裏面へ続く！！

腸管の局所免疫イメージ



飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 FAX 32-9019 E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp

ご不明な点は、市町村担当者、獣医師もしくは家畜保健衛生所までご相談ください。

～ 牛下痢5種混合不活化ワクチンについて～

牛下痢5種混合不活化ワクチンは、下記の病気に対する抵抗力を与えます。

1 牛ロタウイルス病；3種類

幼齢期の急性下痢で黄色水様性下痢便を排泄します。発生は生後3～4日からみられ、1～2週齢の子牛に多く、冬季に多発します。このウイルスには、たくさんの種類があり、本ワクチンには全国で多発している3種類のウイルスが入っており、ほぼ95%の感染を防ぎます。

2 牛コロナウイルス病

年齢を問わず発生する突発性水様性下痢で子牛では白痢、成牛では淡褐色、ときに粘血便を排泄します。乳牛では重度の泌乳量低下または泌乳停止を起こします。伝染性が強く、冬季に多発し、日中と夜間の温度差が激しい時期に発生する傾向があります。

3 牛の大腸菌症

病原性大腸菌の腸管感染によって起こる子牛の下痢で、数日齢以内の新生子牛に好発し、遅くとも1～2週齢までの子牛に発生します。激しい下痢（酸臭を放つ黄色または灰白色の水様性下痢便）を呈して死亡や発育障害の原因となります。

お産前に母牛にワクチン接種することで、母子免疫によりこれらが原因で起こる下痢の症状を軽くします。

下痢の原因となる微生物は、主に発病した牛の糞便が口に入ることで感染し、他の微生物と一緒に感染することで症状と予後が悪化します。

母子免疫を活用した子牛の下痢対策と一緒にお産時の衛生管理も重要です！

～ お産時の衛生管理 について～

**下記のポイントを参考に、再確認をお願いします！
快適な環境でお産を迎えさせましょう！！**



- ・分娩房は清潔に保ち、敷料を多めに入れる。
自然哺育の場合には、房を棒等で仕切り、子牛の居住専用区域を確保する。
- ・保温と換気が大切。特に冬場はすきま風対策が重要です。
- ・分娩房は、除糞—(水洗)—乾燥—消毒—乾燥を実施してから、次の分娩予定牛を入れる。

**消毒は、用法、用量
を守ってね！**



**消毒の前には
しっかりお掃除！**

